

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地			
町田デザイン&建築専門学校		昭和56年4月1日		井上 博行		〒 1940022 (住所) 東京都町田市森野一丁目16番地8号 (電話) 042-726-3211			
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地			
学校法人東京町田学園		昭和53年4月1日		井上 博行		〒 1940022 (住所) 東京都町田市森野一丁目16番地8号 (電話) 042-726-3211			
分野	認定課程名	認定学科名		専任士認定年度	高度専任士認定年度	職業実践専門課程認定年度			
文化・教養	デザイン専門課程	グラフィックデザイン科		平成25(2013)年度	-	令和 2(2020)年度			
学科の目的	ビジュアルデザイン業界の実務者として必要とされる素養を身に付けさせるとともに、業界動向等を踏まえて必要とされる知識、スキルの修得を目的とし、産学連携による活発な活動を通じ、変化する社会に柔軟に適應できる実践力と人間性に富んだ人材の育成を目指す。								
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	ビジュアルデザイン業界及びグラフィックデザイン業界に必要な人材を育て、主に広告・編集・印刷・Web業界への就職を目指す学科である。 取得可能な資格(任意):Illustrator能力認定試験・Photoshop能力認定試験・Adobeアドビ認定プロフェッショナル・色彩検定・Webデザイン技能検定等 中退率:在籍93名(3学年合計)退学者9名:退学率9.7%								
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技	
3年	昼間	※単位数、単位いずれかに記入	2,730 単位数	885 単位数	2,700 単位数	0 単位数	0 単位数	0 単位数	
生徒総定員	生徒実員(A)	留學生数(生徒実員の内数)(B)		留學生割合(B/A)					
120人	90人	1人		1%					
就職等の状況	■卒業者数(C)		26人						
	■就職希望者数(D)		15人						
	■就職者数(E)		15人						
	■地元就職者数(F)		4人						
	■就職率(E/D)		100%						
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		27%						
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		58%						
	■進学者数		1人						
	■その他								
	特育生として学校に残り、引続き専門分野における学習に取り組んでい (令和 4年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報) ■主な就職先、業界等 (令和4年度卒業生) 広告代理店・グラフィックデザイン事務所・デザインプロダクション・印刷会社・WEB制作会社								
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載				無				
当該学科のホームページURL	https://www.mdc.ac.jp/gakugun/graphic/								
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A:単位数による算定)								
	総授業時数		2,730 単位数						
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		0 単位数							
うち企業等と連携した演習の授業時数		240 単位数							
うち必修授業時数		2,730 単位数							
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		0 単位数							
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		240 単位数							
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		54 単位数							
(B:単位数による算定)									
総授業時数		〇〇 単位							
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		〇〇 単位							
うち企業等と連携した演習の授業時数		〇〇 単位							
うち必修授業時数		〇〇 単位							
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		〇〇 単位							
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		〇〇 単位							
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		〇〇 単位							
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)		1人						
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)		0人						
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)		0人						
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)		0人						
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)		0人						
	計		1人						
上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数		1人							

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

本学における教育課程編成において、ビジュアルデザイン分野の制作実務者として必要とされる知識、技術及び技能について企業と連携して組織的教育を行う。具体的には学生の就業先企業が新入社員に期待する実務知識や能力の取得を目標としている。このことを実現するために、本科では業界団体等の意見を積極的に活かし、職業実践的かつ専門的能力育成に必要な内容を科目に落とし込むために、外部の関係者との間に密接な情報交換の場である「教育課程編成委員会」を設け、カリキュラム編成の参考にする体制を組織的に構築している。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育の管理部署(教育部、校務課)と各学科に対して中立的な位置づけとし、実践的な教育を行うために、経営や教育現場から制約を受けない自由な検討が行えるものとする。

尚、教育課程の編成に関しては、以下の過程に基づいて決定する。

- ①学科教員により、今後の教育課程について、全体会・分科会・カリキュラム会議で検討し、改善案を作成する。
- ②教育課程編成委員会にて学科からの改善案について各委員の専門的な知見に基づく意見を伺う。
- ③教育課程編成委員会での意見を踏まえ、学科長及び教育部長を中心に最終案を作成し、校長の決裁で決定する。
- ④次の教育課程編成委員会にて、決定した教育課程を各委員に報告する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
高橋 史倫	公益社団法人日本広告制作協会	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	①
斎藤 尚志	グレートインターナショナル株式会社 プロジェクトマネージャー	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	③
石井 智久	1×10合資会社 代表	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	③
有藤 智文	株式会社小学館ナニング	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	③
佐藤 敏章	さいとう・たかを劇画文化財団理事	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	①
井上 博行	町田デザイン&建築専門学校 理事長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	—
飯田 有登	町田デザイン&建築専門学校 教育部教頭	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	—
平井 勝人	町田デザイン&建築専門学校 教育部教頭	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	—
鈴木 孝也	町田デザイン&建築専門学校 教育部ビジュアル学科長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	—
黒瀬 申悟	町田デザイン&建築専門学校 教育部コミック学科長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	—
市川 正人	町田デザイン&建築専門学校 法人本部	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(9月、1月)

(開催日時(実績))

第1回 令和4年9月20日 13:30～15:30

第2回 令和5年1月24日 13:30～15:30

0

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

前回の申請以降外部からの企業連携の際は作品に対しての指摘・修正などを行い学生にフィードバックを行い修正までの作業が指導できるようになっている、今後の課題としては、自分の好きなモノ・得意なモノをしっかりとプロセスを持ち卒業に向けて学習できると成果が上がる。

またAIとグラフィックデザイン業界との関わり方をリテラシーからしっかりと理解させることが今後の課題。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

広告・編集デザイン等、グラフィックデザイン業界で必要とされる人材育成のため、グラフィックデザイン業界から企業課題を受け、下記要点を踏まえた企業側からの指示・要望に従い実習を行うことを基本方針とする。①グラフィックデザインの作品制作における、受注から納品までのプロセスを理解した知識・技術習得を目的とした実習、②紙媒体以外のメディア(Web・デジタルサイネージ・スマートデバイス)を視野に入れたデザイン制作、③自ら制作している作品のプロセスや結果報告などを、学年末に実際の企業へ報告を受ける。(企業の課題により、中間報告も必要とする)

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

株式会社さいか屋町田JORNA運営グループ企画・宣伝担当と連携を行い、夏季・冬季シーズンのイベント時の店頭 装飾を行っている。学生が集客につながるための、店内装飾・参加型企画・ワークショップなどの提案を行い、企画宣伝部のデザイナー・プランナーと打ち合わせの上、制作・納品(搬入作業)を行う。納品した成果物に関しては、評価を連携企業から受ける。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
セールスプロモーション	広告・編集分野にて常に販売促進・集客を視野に入れたグラフィックデザインを業界の意見を通して行う科目。具体的には企業から与えられた課題に対してアイデア立案・企画書・プレゼンテーション・制作・納品までの一連の流れを授業内で行い、より実践的なスキルを身に付けることが目的となる。	株式会社さいか屋町田JORNA
Webデザイン2	Web業界のデザイン的なトレンドは日々進歩しているため、実際の業界内で使用している素材を課題の中へ取り入れ、閲覧～集客～解析のプロセスを視野に入れた課題への取り組みを行っている	1×10合資会社

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

本校の定める「教職員研修に関する規程」に基づき、下記の方針で実施している。

<目的> 教職員に対して、現在就いている職又は将来就くことが予想される職に関わる職務の遂行に必要な知識、技能を修得させることにより、その職務の遂行に必要な教職員の能力、資質等の向上を図ることを目的とする。

<校長の責務> 目的を達成するため、研修計画を策定し、その研修計画に基づく研修を実施することにより、教職員に研修を受ける機会を与えなければならない。

校長は、必要と認める時は、他の機関と共同して又は外部の機関に委託して研修を行うことができるものとする。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 「DX時代に求められる専門学校」 連携企業等: 宣伝会議 教育講座事務局
期間: 令和4年9月15日(水) 対象: 専門分野教員
内容: 「産業界が抱える課題とDX時代に求められる人材要件」デジタルトランスフォーメーションの時代で求められる新卒を分析し教育現場に活かしていく

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 「GIGAスクール構想ICT利活用の高度化」 連携企業等: 東京都私学財団 国際大学GLOCOM
期間: 令和4年7月19日(火) 対象: 就職指導教員
内容: GIGAスクール構想へ私学の強みをいかに発揮し、具体的にカリキュラムへ活かしていく

研修名: 「25年卒クリエイティブ職就活攻略ウェビナー」 連携企業等: 株式会社ユウクリ
期間: 令和5年3月4日(土) 対象: 就職指導教員
内容: 令和3年度の美大芸大就活状況の結果から見えてくる令和4年度の就活対策

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 「OAC日本広告制作協会 未来価値開発委員会」 連携企業等: 日本広告制作協会
期間: 令和5年8月 対象: 専門分野教員
内容: デザイン系専門学校との交流について・広告業界とAIについての意見交換と今後の対策

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 美和せら カウンセリング懇談会 連携企業等: 一般社団法人<美和せら>心理研究所
期間: 令和5年9月5日(火) 対象: 教職員
内容: 学生の不登校・長欠

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

学生がより質の高い実践的な教育を受けられるよう、学校運営の改善を目指し、町田デザイン&建築専門学校の建学の精神に則り、自己評価を行う。より質の高い実践的な教育を目的として教育活動及び学校運営について、時代や社会のニーズを睨んだ目標を設定し、その達成の進捗について評価を行うことが目的となる。また企業、団体、保護者等の学校関係者を選任し、自己評価について改善のアドバイスを受け、組織全体で改善を図る。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	①理念・目標・人材育成像は、定められているか ②育成人材像は専門分野に関連する業界等のニーズに適合しているか ③理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか ④社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか
(2)学校運営	①理念に沿った運営方針を定めているか ②理念等を達成するための事業計画を定めているか ③設置法人は組織運営を適切に行っているか ④学校運営のための組織を整備しているか ⑤人事・給与に関する制度を整備しているか ⑥意思決定システムを整備しているか ⑦情報システム化に取り組み、業務の効率化を図っているか
(3)教育活動	①就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか ②退学率の低減が図られているか ③学生相談に関する体制を整備しているか ④留学生に対する相談体制を整備しているか ⑤学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか ⑥学生の健康管理を行う体制を整備しているか ⑦学生寮の設置など生活環境支援体制を整備しているか ⑧課外活動に対する支援活動を整備しているか ⑨保護者との連携体制を構築しているか ⑩卒業生への支援体制を整備しているか ⑪産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか ⑫社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか
(4)学修成果	①就職率の向上が図られているか ②資格・免許の取得率の向上が図られているか ③卒業生の社会的評価を把握しているか
(5)学生支援	①就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか ②退学率の低減が図られているか ③学生相談に関する体制を整備しているか ④留学生に対する相談体制を整備しているか ⑤学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか ⑥学生の健康管理を行う体制を整備しているか ⑦学生寮の設置など生活環境支援体制を整備しているか ⑧課外活動に対する支援活動を整備しているか ⑨保護者との連携体制を構築しているか ⑩卒業生への支援体制を整備しているか ⑪産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか ⑫社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか
(6)教育環境	①教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか ②学外実習・インターンシップ・海外研修等の実施体制を整備しているか ③防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか ④学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか

(7) 学生の受入れ募集	① 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか ② 学生募集を適切かつ効果的に行っているか ③ 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか ④ 入学選考基準に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか ⑤ 経費内容に対応し、学納金を算定しているか ⑥ 入学辞退者に対し、授業料について、適正な取扱いを行っているか
(8) 財務	① 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか ② 学校及び法人運営に係る主要な財務数値に関する財務分析を行っているか ③ 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか ④ 予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか ⑤ 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか ⑥ 私立学校法に基づく財務公開体制を整備し、適切に運用しているか
(9) 法令等の遵守	① 法令や専修学校設置基準を遵守し、適正な学校運営を行っているか ② 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか ③ 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか ④ 自己評価結果を公表しているか ⑤ 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか ⑥ 学校関係者評価結果を公表しているか ⑦ 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか
(10) 社会貢献・地域貢献	① 学校の教育資源を活用した社会貢献、地域貢献を行っているか ② 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか
(11) 国際交流	① 国際交流に取り組んでいるか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

デザイン技術の向上を図りつつ、デザインのアイデア立案・企画力・応用力のある人材を育成するという観点から、早期のポートフォリオ制作の着手、進級制作を自由課題とせず、自らのポートフォリオ企画を進級評価にする形へ変更

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
北川 拓	株式会社キタセツ 代表取締役	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等役員
細野 泰司	町田商工会議所 監事 町田相模原経済同友会副代表幹事	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	地域団体
鴨志田 功	株式会社エンテ 代表取締役 町田デザイン&建築専門学校同窓会長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	卒業生
浦部 衛仁	有限会社SHUWA C&S 就採研事業部 CEO	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等役員
天野 雅秀	学校法人光明学園相模原高等学校 校長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	校長

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <https://www.mdc.ac.jp/koukai/>

公表時期: 令和5年9月22日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

情報公開に関する関連法に基づき、本校の教育を通じて修得する知識や技術、学校の教育方針、特色などの情報を分かりやすく正確に公表し、本校独自の特色ある教育活動について積極的に情報提供を行う。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	①建学の精神 ②沿革
(2)各学科等の教育	①職業実践専門課程の基本情報(別紙様式4)
(3)教職員	①各学科の専任教員、非常勤講師
(4)キャリア教育・実践的職業教育	①企業と連携した実学実習 ②コンテスト等入賞実績
(5)様々な教育活動・教育環境	①産学ネットワーク展における自主的な取組 ②サークル活動の充実
(6)学生の生活支援	①キャリアセンターによるきめ細かな就職指導 ②留学支援係による留学生のフォロー ③カウンセリング機会の提供
(7)学生納付金・修学支援	①学生納付金(入学選考料・入学金・施設設備・管理費・授業料(年間)) ・1年次 1,240,000円 2年次 1,090,000円 3年次 1,090,000円 ②特別支援制度あり
(8)学校の財務	①財務諸表等
(9)学校評価	①自己評価報告書公表 ②学校関係者評価委員会議事録公表
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <https://www.mdc.ac.jp/koukai/>

公表時期: 令和5年9月22日

授業科目等の概要

(デザイン専門課程 グラフィックデザイン科)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○		デザインベーシック	デザインをソリューションとして捉えその基礎力を、グラフィックデザインの基礎力とともに身につける実技演習。	1前	90	6	△	○		○		○		
2	○		描画演習	物の形状を捉える、陰影描写、質感表現、パースなど、描画の基礎を総合的に学ぶ	1前後	90	6		○		○			○	
3	○		色彩平面構成	色彩の理解と様々な素材の表現技法を平面の造形構成力として実習で学ぶ。	1前後	90	6	△	○		○			○	
4	○		写真撮影	シャッタースピードと露出、被写界深度、光源と影などを学び写真撮影の基本を習得。一人一人が作品撮影なども出来るようにする。	1前	45	3	△	○		○			○	
5	○		クリエイティブヒント	クリエイティブを刺激する広範なヒントを探る。紙と素材、印刷概論、書籍・展覧会紹介など	1前	45	3	△	○		○			○	
6	○		WEBデザイン1	パソコン使用のWebサイトの基礎を学び、プランニング・コンテンツ制作などの様々なトータルなWebサイトの制作。	1前後	90	6		○		○			○	
7	○		Photoshop	PCのソフトPhotoshop基礎操作の習得。後期からは技術を応用した写真合成、画像処理などへと発展させる。	1前	45	3		○		○			○	
8	○		Illustrator	PCのソフトIllustratorの基礎操作の習得。同時にレイアウトの基礎、印刷入稿のデータ作成なども学ぶ。	1前	45	3		○		○			○	
9	○		クリエイティブヒントワークス1	自ら見つけたテーマもしくは講師が指定したテーマに基づき、自由な表現（グラフィックに限らず）で作品を制作し問題解決の幅を広げていく	1前後	90	6		○		○			○	
10	○		デザインコンペ1	各自の実力を知る手だてとして公募展へ応募。修正を繰り返しベストな状態で出品出来るようにする。	1前後	45	3		○		○			○	○
11	○		パッケージ基礎	立体造形、物の梱包、その表面のレイアウトを含む課題として具体的な商品のパッケージを制作する。	1後	45	3	△	○		○			○	
12	○		PS&IL	Illustrator・Photoshop 両方のアプリを並行的に使用し作品制作をよりスムーズに行える技術を習得する。	1後	45	3		○		○			○	

13	○		ピアワークス1	1~2年までの学年を通し、1つの課題に挑戦しお互いに教えあいコミュニケーション能力や人間教育を学ぶ為の実習。	1後	90	6		○		○		○
14	○		ポートフォリオ制作1	1年の段階から自らの作品を他社へ見せるための簡単なポートフォリオ制作を自主制作し感覚を養う。	1前	45	3	△	○		○		○
15	○		一般教養	社会人としての基本的な知識や一般教養を学習する。	1後	15	1	△	○		○		○
16	○		WEBデザイン2	パソコン使用のWebサイトの基礎を学び、プランニング・コンテンツ制作などの様々なトータルなWebサイトの制作。	2前後	90	6	△	○		○		○
17	○		DTP	文字・写真・イラストの3要素をレイアウトし印刷に適したデータを作成する技術を学ぶ。	2前	45	3		○		○		○
18	○		アドバタイジング2	ネットワークの発展によりクロスメディアの利用が多くなった広告であるが、その根幹を研究し作品作りにも挑戦競る。	2前後	90	6	△	○		○		○
19	○		CI/VIブランディング	企業やブランドの顔となるロゴマーク・コーポレートカラーなどのあり方を学ぶ。	2前	45	3	△	○		○		○
20	○		セールスポロモーション	全15回にて、ターゲット・コンセプトなどを確実に設定しプロモーション展開が理解できる作品作りを行う	2前	45	3		○		○		○
21	○		エディトリアル	雑誌、カタログなど編集物のデザイン・レイアウトを学び、細部まで作り込んだ制作を行う。	2前後	90	6		○		○		○
22	○		WEBシステム	Javascriptやその技術を使用したJqueryなどWebにリッチコンテンツを制作するスキルを学ぶ。	2前	45	3		○		○		○
23	○		デザインコンペ2	各自の実力を知る手だてとして公募展へ応募。修正を繰り返しベストな状態で出品出来るようにする。	2前	45	3		○		○		○
24	○		ポートフォリオリサーチ	ポートフォリオ制作において、一般的な見本や先輩のポートフォリオなど視野を広げリサーチを行う	2後	45	3		○		○		○
25	○		クリエイティブワーク2	自ら見つけたテーマもしくは講師が指定したテーマに基づき、自由な表現（グラフィックに限らず）で作品を制作し問題解決の幅を広げていく	2後	45	3		○		○		○
26	○		グラフィック表現2	一年次のデザインベーシックを発展させ、より高度なコミュニケーションを成立させるためのグラフィックデザインを学ぶ。	2後	45	3		○		○		○
27	○		プレゼンワーク2	プレゼンテーションに必要な基礎スキルについての講義とディスカッションを行います。例えば、話し方、アイコンタクト、聴衆の関心を引く方法などについて学びます	2後	45	3	△	○		○		○

28	○		ポートフォリオ指導	自己表現を大切にしつつ、編集物としての基本的なバランスを徹底したポートフォリオ制作を学ぶ	2後	45	3	△	○		○								
29	○		ポートフォリオ制作2	就職活動に向けたポートフォリオを企業目線で作成できるよう、リサーチを元に制作する。	2前	45	3	△	○		○								
30	○		ピアワークス2	1~2年までの学年を通し、1つの課題に挑戦しお互いに教えあいコミュニケーション能力や人間教育を学ぶ為の実習。	2後	90	6		○		○								
31	○		就職指導	キャリアセンターの指導により就職活動準備を行う	2後	15	1		○		○								
32	○		グラフィック表現3	一年次のデザインベーシックを発展させ、より高度なコミュニケーションを成立させるためのグラフィックデザインを学ぶ。	3前	45	3		○		○								
33	○		ポートフォリオ制作3	課題・自主制作などをまとめ就職活動で必要になるポートフォリオを制作し、紙媒体・データ・WEBなど様々な媒体へ展開させる。	3前	90	6	△	○		○								
34	○		卒業制作企画	卒業制作を行う前段階にてアイデアの創出～モックアップの作成などを行い事前に進行可能なアイデアなのかをリサーチする。	3前	45	3		○		○								
35	○		アドバタイジング3	ネットワークの発展によりクロスメディアの利用が多くなった広告であるが、その根幹を研究し作品作りにも挑戦競る。	3前	45	3		○		○								
36	○		デザインコンペ3	各自の実力を知る手だてとして公募展へ応募。修正を繰り返しベストな状態で出品出来るようにする。	3前	45	3		○		○								
37	○		ポートフォリオ指導3	自己表現を大切にしつつ、編集物としての基本的なバランスを徹底したポートフォリオ制作を学ぶ	3前	45	3		○		○								
38	○		就活総合ワーク	個人面談による就職指導 及びポートフォリオ制作/就職活動	3前後	90	6	△	○		○								
39	○		プレゼンワーク3	それぞれに与えられたテーマに基づいてリサーチや取材を行い発表しプレゼンテーション力を学ぶ。	3前	45	3		○		○								
40	○		WEBデザイン3	Wordpressを中心としたデータベースの理解、システム構築の方法、オリジナルテーマの仕組みを理解する	3前	45	3		○		○								
41	○		就職活動・インターン	会社訪問・インターンシップなど企業研修へ行く	3前後	45	3		○		○								
42	○		卒業制作ゼミ	3年間の集大成として、社会的な問題解決を視野に入れたテーマに基づきそれぞれのゼミ講師が指導を行う	3後	180	12		○		○								

43	○		卒業制作	制作テーマも自ら探し、それを発展させ3年間の集大成。学生により、さらにデザインの発展をさせた試作も試みる。	3 後	180	12		○	○		○
44		○	グローイングアップゼミ	外部企業からビジネスマナーや仕事に対する意識など社会人基礎講座を習得する。	2 後	15	1	△		○		○
45		○	長期研修期間・実学実習	実学実習・コンペティションも含めた課題をリサーチも含め制作。	2 前		3		○	○		○
46	○		特別研修	自ら経験したもの、取材したものに基づいてレポートやデザイン制作を行う。また海外研修へ特定の理由により参加できなかった学生へ適応される。	2 前							
合計					46	科目		2730 単位（単位時間）				

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：	1～3学年の企業連携科目240単位時間中200時間以上の演習を受講する者	1学年の学期区分	2期
履修方法：	演習・課題作品の提出	1学期の授業期間	15週

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。